

祝島の植物観察 山歩きマップ

①

たいら 「平さんの棚田」編

山口県熊毛郡上関町祝島

制作：祝島ネット21 (2025年1月発行)

◎平さんの棚田

大正時代の終わり頃から約30年かけて、親子三代で、重機も使わず「てこ」で造りあげた日本最大級の美しい棚田。急勾配の土地を切り拓いて、広く平らな田んぼを造るため、高い石垣が築かれました。

「谷積み」という手法で積み上げられた石垣は、数トンもある巨石から

小石まで理想的な配列がなされています。石垣の最も高いところは9mもあり、そこからの眺めは

絶景です。港からは約4.5km、歩いて1時間ほどかかりますが、

一見の価値があります。

(2016年から休耕中です。)



◎植物観察のポイント

四季折々たくさんの花に会えるルートです。常緑樹に覆われた山道はちょっぴり冒険気分。ピウ畑に竹林に変化に富み飽きることがありません。棚田の植物は必見！夏には牧野博士の標本をもとに新種発表されたマルバマンネングサが星型の花を散りばめ、晩秋はノジギクが咲き誇ります。また、希少種のヒメウラジロもみられます。

※このパンフレットの制作は、(公財)日本離島センターの離島人材育成基金助成事業による助成を受けています。

「平さんの棚田」付近でよく見られる植物



ノジギク

晩秋から冬に山道や棚田の石垣を飾る多年草です。上関町の花に選定されています。



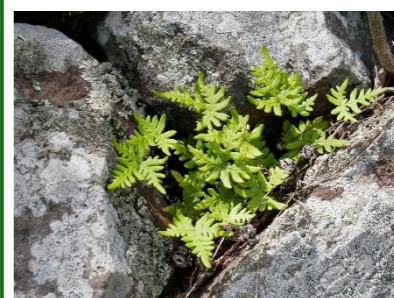
マルバマンネングサ

夏に星型の花を散りばめる多年草。牧野博士の標本をもとに新種発表されたのは有名な話。



ヤマブキ

明るい山吹色の花は春に。古くから親しまれてきた花木で万葉集にも度々登場します。



ヒメウラジロ

常緑性シダ植物。葉裏は真っ白で葉の形は雪の結晶のよう。絶滅の危機に瀕しています。



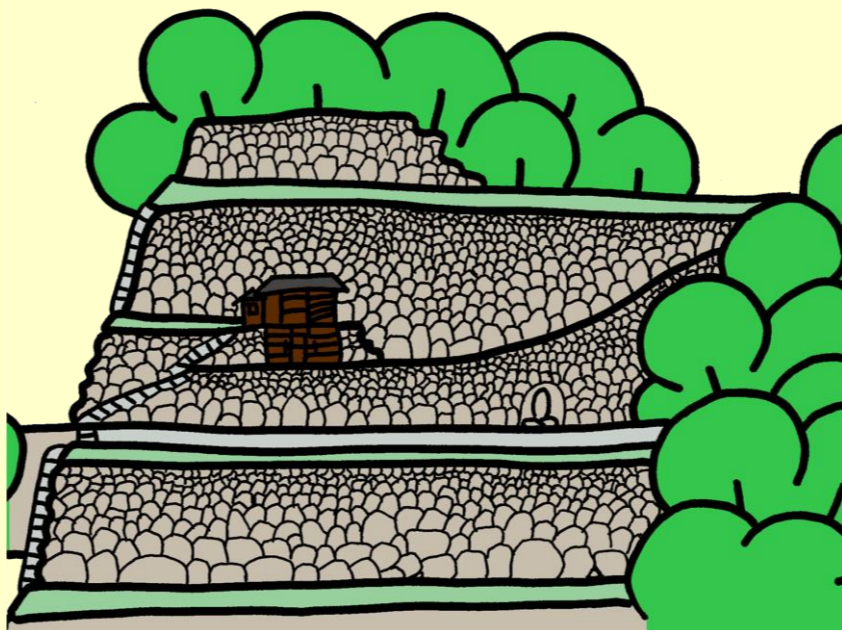
カラムシ

花は夏秋。繊維がとても丈夫でかつては漁網や衣類などの原料に利用されてきました。



クサギ

夏に咲く純白花は真っ青な空の色に映えます。花の爽やかな芳香も藍色の果実も魅力的。



サボテン(園芸種)

平さんが植えた一鉢が広がったもの。情熱的な朱色の花はゴールデンウィークのころ満開になります。



キツネノマゴ

とっても小さな一年草。夏秋に咲く桃色の花は大口を開けて笑っているみたい。



テイカカズラ

石垣を這うツル性の常緑樹です。花は初夏。爽やかな香りのシャワーが降り注ぎます。



シャク

春に小花を賑やかに咲かせます。食感や香りは春の七草の筆頭セリに負けないかも。



カラスザンショウ

日向を好む先駆樹種です。開花期は夏。花にはアゲハチョウの仲間が吸蜜に訪れます。



カエドコロ

カエデに似た葉のヤマノイモの仲間。夏から秋の橙色花は独特の臭いで気が付きます。



コバナツナミ

木陰に生える多年草です。別名ビロードツナミ。春に咲く花の集まりは波頭のように。

平さんの
棚田

ゴール
4.5km



セニンソウ



ボタンヅル



ウツギ



ツワブキ



ビワ



ムサシアブミ

4.0km



ハスノハカズラ(果実)



オオムラサキシノブ(果実)



ウマノアシガタ



ノシラン



ナワシロイチゴ



スイカズラ

3.5km



農作業用の山小屋



農作業用の山小屋



トベラ



マムシグサ



キカラスウリ



ミツバベンケイ

3.0km



運搬用ケーブル



えんこう谷



カジノキ(果実)



ベニバナポロギク



イヌビワ(果実)



ガガイモ

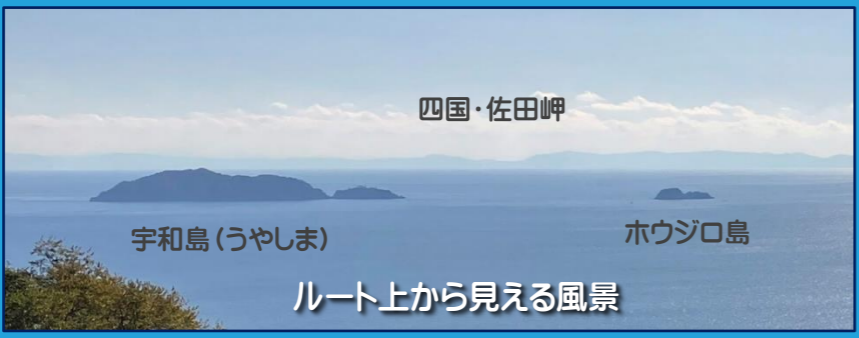
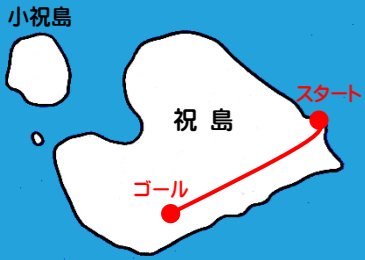
2.0km

このルートでよく見られる植物

1.0km

行者堂へ

【ルート解説】
港から神社の鳥居付近まで海岸の道路を東へ進みます。鳥居の少し手前の坂道を登ります。ここから1キロ過ぎまでは上り坂が続きます。途中、学校の横を通り、お墓の所を通ります。お墓の所に分かれ道がありますが、ここはまっすぐ進みます。あとは、そのまま進めば、およそ1時間で「平さんの棚田」に到着します。ルート上からは瀬戸内海を一望でき、天気がいいと四国・佐田岬の方まで見渡すことができます。



ルート上から見える風景



分岐点(まっすぐ進む)



スタート

祝島港

「平さんの棚田」までの山歩きマップ